事業計画書

平成２５年度

倉吉未来中心の委託業務に関する事業計画書

[平成２５年２月２８日]

財団法人鳥取県文化振興財団

目　　次

はじめに …… １頁

１　管理運営の基本的な考え方
（１）管理運営の方針 …… ３頁
（２）平成２５年度事業計画 …… １１頁

２　芸術文化の振興に関する業務について
芸術文化振興実施の基本的考え …… １２頁
（１）施設を利用して行う芸術文化事業の事業企画及び収支計画等 …… １６頁
（２）文化団体等が行う催物に対して、文化芸術や舞台技術に関する専門知識を有する職員による助言・支援の考え方 …… ２５頁
（３）サービスの向上策と利用促進に向けた取組 …… ３４頁

３　管理の基準・サービスの提供内容
（１）開館時間の考え方と設定内容 …… ４８頁
（２）休館日の考え方と設定内容 …… ４８頁
（３）利用料金の考え方と設定内容 …… ４８頁
（４）利用料金の減免に対する考え方 …… ６５頁
（５）施設の利用促進に向けた具体策 …… ６９頁
（６）個人情報の保護への対応 …… ７４頁
（７）情報の公開への対応 …… ７６頁

４　施設設備の維持管理業務について
（１）利用者の快適で安心・安全な利用及び施設設備の長期安定使用のための維持管理の考え方・対応 …… ７８頁
（２）施設設備の保守点検、清掃、保安警備等の業務遂行にあたっての基本的な考え方 …… ７９頁
（３）維持管理業務に係る経費積算の考え方 …… ８１頁

５　外部委託の考え方
（１）外部委託する業務内容とその考え方 …… ８２頁
（２）委託先選定方法 …… ８３頁

６　省エネルギー・省資源への取組 …… ８４頁

７　事故・事件の防止措置と緊急時の対応
（１）火災・盗難・災害などの事故・事件の防止（防災）対策 …… ８４頁
（２）緊急時の体制・対応 …… ９１頁
（３）利用者の苦情等トラブルの未然防止と対処方法 …… ９１頁

８　利用者の要望及び対応方針 …… ９３頁

９　事業評価方法の考え方 …… ９５頁

１０　地域との連携について
（１）中部地域の文化団体及び施設を利用するその他団体との連携方針 …… ９６頁
（２）パークスクエア内各施設との連携方針 …… ９８頁

１１　組織及び職員の配置等
（１）管理運営の組織 …… ９９頁
（２）職員の職種等 …… １０１頁
（３）日常の職員配置 …… １０２頁
（４）人材育成 …… １０３頁
（５）芸術文化事業を実施していくために必要な専門職員の配置 …… １０４頁

１２　関係法令に係る監督行政機関からの指導等の状況及び対応状況 …… １０６頁

１３　法人等の社会的責任の遂行状況 …… １０６頁

１４　添付資料　資料１、資料２

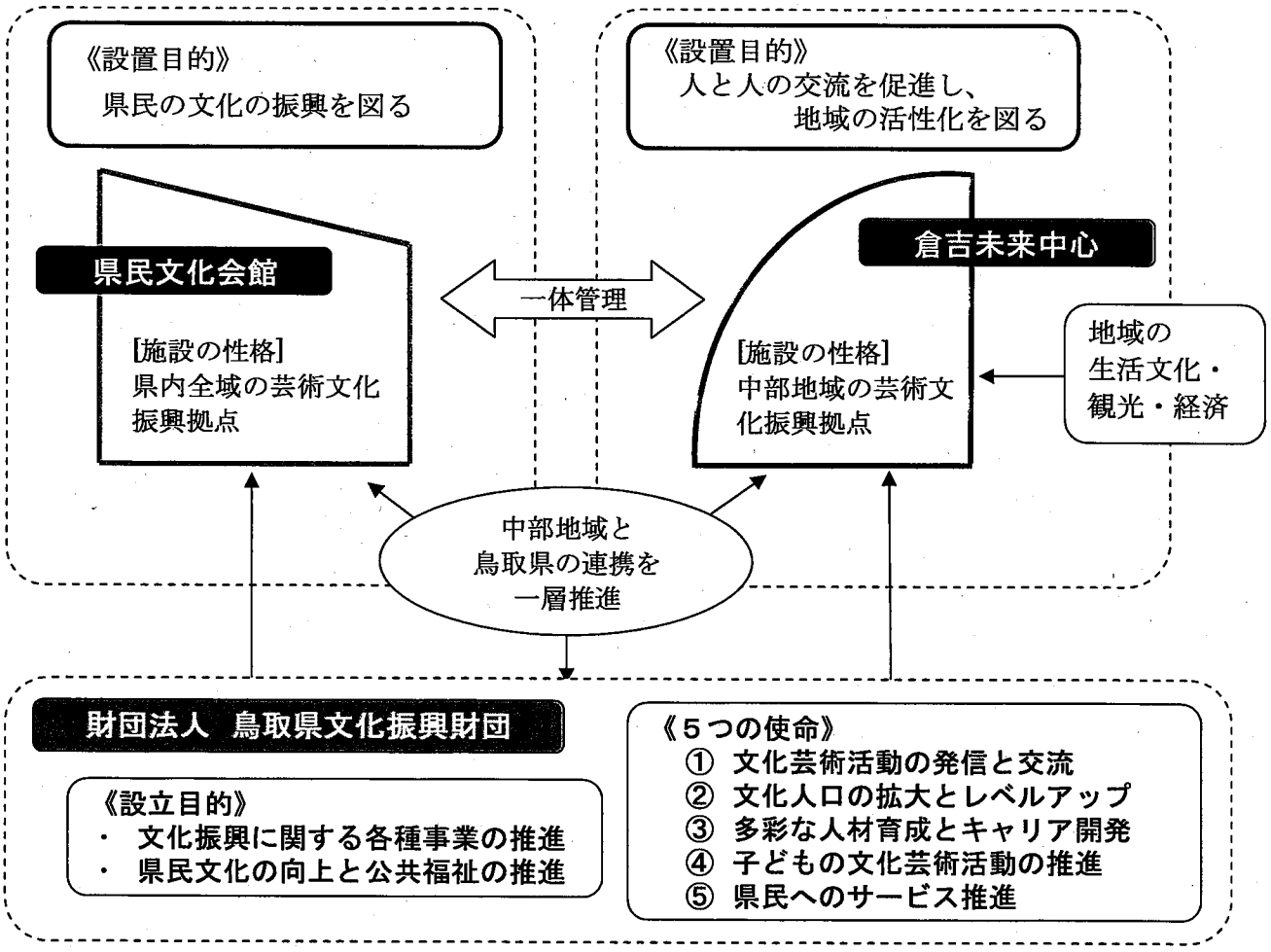
はじめに

財団法人鳥取県文化振興財団は、県民の多様化、高度化する文化への志向に応えるため、県内の文化振興に関する事業の推進と、県民文化の向上と公共福祉の増進に資することを目的に、『文化振興財団の５つの使命』を基本方針として、各種事業を行なっています。

平成５年度より鳥取県民文化会館を、平成13年度より倉吉未来中心を受託管理運営し、文化振興の拠点施設でもあるこれら２施設を一体的に管理運営することにより、県民により質の高い文化的公共サービスを提供してきました。

倉吉未来中心は**「人と人との交流を促進し、地域の活性化を図る」**ことがその主たる目的として設置されました。また中部地域の**「芸術文化振興拠点」**としても位置づけられています。これらの使命や設置目的を達成するために、文化芸術の振興を図りながら、経済や観光にも深く連携していくことが望まれています。

＜倉吉未来中心の位置付け＞



倉吉未来中心の運営に当たって、より県民の皆様が利用しやすいサービスの向上や、様々なジャンルの催しに対応できるよう、物品販売、飲食対応も可能にし、たくさんの人々が集い、様々な交流・憩いの場を提供してきました。また文化事業においては地域の文化活動者が積極的に参画し、地域と未来中心が協働し、共に創る事業 “楽演祭”の実施や、質の高い舞台公演の鑑賞機会の提供、文化芸術活動者・次世代を担う若者の育成などを展開してきました。

平成25年度からの施設の運営にあたっても、次の２点を基本の柱とします。そして、文化施設として質の高い倉吉未来中心に多様な目的をもった人々が集まり、文化の垣根を越えた広がりと交流を生み、文化芸術自体が特別なものではなく、生活に密着し、誰もが触れて感じることのできる、まさに日常の中に溶け込んだ**「倉吉未来中心」**として存在していくことを引き続き目指します。

運営に関する基本の柱

公平・公正な管理運営 ⇨ **子どもから高齢者、障がいのある方も含め、すべての県民の皆様へ平等のサービスを提供。**

地域に根ざした文化の創造 ⇨ **これまで培ってきた経験豊かな人材、アートマネージメント能力、舞台技術や管理運営のノウハウを最大限に活かし、地域との協働による文化の振興を推進し、郷土を活性化。**

地域の活性化を図るためには、芸術文化が経済や観光、教育や福祉など、人々が生きていくうえで大切な分野とつながり、地域と連携することが大切です。そのため、次の３つの**「連携の柱」**をその目的とし、中部地域の文化活動者や団体との連携により文化事業を推進しながら、豊かな郷土づくりを目指します。

連携の柱

① 地域活性化の促進
② 相乗効果や、それぞれの事業の発展、育成、レベルアップ
③ 財団のノウハウの提供による文化活動の地域への拡大

２つの**《運営に関する基本の柱》**と３つの**《連携の柱》**に沿った倉吉未来中心の管理運営及び芸術文化の振興を推進していくことは、鳥取県及び中部地域の文化創造・地域創造につながり、経済、観光の活性化への波及効果をもたらすと考えます。それは、倉吉未来中心に期待される「施設の性格」を全うし、倉吉未来中心の「設置目的」を達成することにつながると考えます。

第１期指定管理の３年間と平成21年度からの４年間の指名指定期間の実績等に基づき、平成25年度の鳥取県立倉吉未来中心の施設管理運営及び事業企画を計画いたします。

平成２５年２月

鳥取県文化振興財団
鳥取県立倉吉未来中心

1 管理運営の基本的な考え方

(1)管理運営の方針

県民に愛され、より多くの県民が来館し、多様な事業に参画することが可能な施設運営を目指します。

施設の集客・参画や職員のアートマネジメント能力の向上を図りながら、段階を追った戦略的事業を行うとともに、社会情勢、文化の成熟度、活動者の人材育成度、県民ニーズなど、内外の環境の変化を絶えず把握分析し、**「県民目線」を常に心がけ、利用者の立場に立った利用しやすい文化施設**とします。

① 管理業務の基本方針

県民が広く利用する公の施設としての性格を十分認識し、その施設を管理する者としての自覚を忘れず、法令を遵守の上、利用者の安心・安全を第一に確保しながら、次のとおり効率的で公平な管理業務を行ないます。

ア 専門的人材の配置

経験豊かな専門的人材を配置し、文化施設としての機能を十分果たせる管理業務を行います。

イ 効率的で経済的な維持管理

効率的で経済的な維持管理に努め、管理経費の節減を図ります。

ウ 安心・安全快適な管理

利用者が安全で快適に施設を利用できるよう、施設設備の日常・定期的な点検、修理に努めます。

エ 環境への配慮

節電、節水、省エネ等に努めるとともに、廃棄物の発生を可能な限り抑制し、環境負荷に配慮します。

オ 設置者との連携

設置者（県）及び中部市町との連携を密にし、適時、適切な報告や資料の提出を行います。さらに、施設の状況や課題など、必要な情報を共有し、必要に応じて協議等を行います。なお、ネーミングライツが導入された場合、その愛称等の定着、周知、普及等に協力します。

② 運営業務の基本方針

倉吉未来中心は県民が主体的に文化活動を行うための拠点施設であることから、管理運営を行うにあたっては、公平な運営、利用者の意見の反映、そして、施設利用に対する必要な助言や技術的支援など、利用者への総合的支援を積極的に行います。

ア 公平で公正な利用の確保と安心・安全で快適な環境づくり

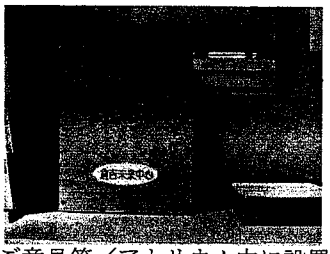
県民からの様々な要望に対応し、常に公平で公正な利用が確保できる貸館のシステムの継続と充実を図ります。また、利用者の安全を第一に考え、事故防止に努めるとともに、安心・安全で快適な環境を作ります。

イ 利用者への専門的技術支援

文化活動者などをサポートするために、職員の専門性を活かした施設利用に対するアドバイス、技術的支援を行います。

ウ 利用者の声を活かした運営

利用者団体の代表者等による「利用者懇談会」の開催やアンケート調査により、利用者のニーズを把握し、可能なものは速やかに施設運営に反映させるなど、満足度を高めます。



【ご意見箱／アトリウム内に設置】

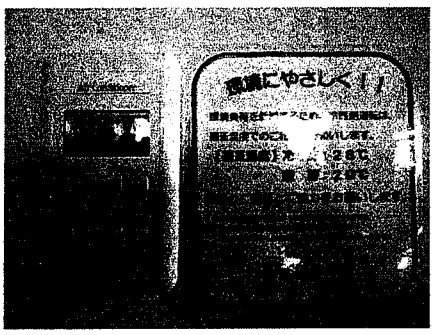
エ　安定的な収入の確保

施設利用料・設備使用料の安定的確保に加え、売店（レストランは平成23年5月より業者が撤退）や自動販売機の設置による収入、地元企業参画によるスポンサーシップ制度の創設（協賛金、寄付金等）や助成金の獲得など、新たな資金開発や独自の資金調達に引き続き努めます。

オ　適正なサービス水準の維持とサービスの向上

利用者が快適に施設利用できるよう適正なサービス水準を維持しながら、常に業務の改善・効率化と運営費等の節減を図ります。

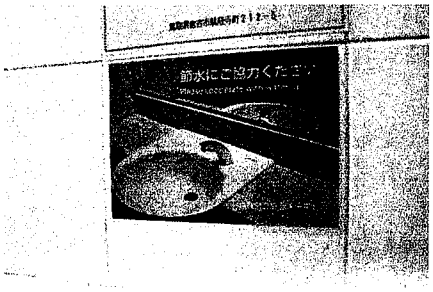
さらに、外部委託業者への複数年契約の導入、複数施設共同契約の導入等を行い、コスト削減を図ります。また、職員の経費削減の取組みはもとより、利用者の方へも冷暖房温度の設定、水の節水など、環境への配慮と併せて、経費削減の理解と協力を求めます。



【空調エコ運転のお願い貼紙】

カ　県民参画による運営

平成18年度から導入しているホールボランティア制度を継続し、施設運営の様々な場面に県民が参画できる仕組みをさらに充実・拡充します。また、登録ボランティアが地域の様々な催しのリーダーとして、より多くの催しに参画できる仕組みを構築します。



【節水のお願い貼紙】

キ　施設利用の促進と情報発信

様々な媒体による広報活動や営業活動を行い、施設の利用促進を図るとともに、県民及び中部地域住民へ、周辺施設や近隣地区も含めた情報発信をします。

また、プレイガイドとして様々なコンサートやイベントのチケットを取扱い、文化や地域情報を提供します。

ク　地域に根ざすホールづくり

中部地域の交流拠点として、広く住民を対象とする事業に対して、これまで以上に利用者の立場に立ったアドバイスや技術支援を行なうことで、より地域との信頼関係を強固なものとします。

【平成24年度実施：倉吉未来中心ホールたんけんツアー2012】

miraichushin

【ホールたんけんツアーイメージロゴ】

また、地域に根ざす身近なホールとして、新しい時代を担う小中学生を対象にしたバックステージツアーやバリアフリー見学など社会的なプログラムを実施します。

さらに中部地区の各種学校などのイベントに関する技術相談を受け、魅力あるイベントとなるよう、技術支援体制を構築します。

【バリアフリー見学】

ケ　職員の専門性やこれまでの実績を活かした管理運営

平成13年度以来の実績に基づき、評価や反省を踏まえて、蓄積したプロパー職員の専門性、経験、ノウハウを十分に活かした管理運営を行います。

コ　コンプライアンスを徹底した管理運営

施設管理に関する消防法等の諸法令や個人情報の適切な管理、労働基準法等の職員の労働環境の整備に関する法令等を遵守し、コンプライアンスを徹底した管理運営を行います。

また、安全衛生委員会や鳥取県版環境管理システム審査登録制度（ＴＥＡＳ）等を通じて、職場環境の改善に引き続き努力し、働きやすく、環境に配慮した職場づくりを行い、職員の継続確保、モチベーションと責任意識の向上を図ります。

【安全衛生委員会の施設管理点検】

③ 芸術文化事業の基本方針

芸術文化によって、人を、暮らしを、街を豊かにし、誇りある郷土を構築するため、当財団では県民文化会館を拠点として、県民の皆様に国内外の質の高い舞台公演の鑑賞機会を提供し、県民文化の向上に努め、文化芸術愛好者の拡大に寄与してきました。

また、地域文化振興の意義を認識し、地域特性に配慮しながら鳥取県オリジナルの創造的な舞台芸術作品の企画・プロデュースやアウトリーチ活動などを通じて、文化芸術活動者・次代を担う若者の育成と芸術文化への参画を推進してきました。

平成 25 年度も引き続き、県民の皆様が芸術文化を等しく参加・享受でき、芸術文化が未来・次世代・地域社会・県民生活を育むことを強く意識して、文化立県の目的達成に努めることとし、財団の基本方針である**「５つの使命」**のもと、選択と集中による事業展開を継続して推進します。

「5つの使命」

①【文化芸術活動の発信と交流】

文化芸術活動と交流、情報の発信と収集の拠点として、県民をはじめとする文化活動者と産官学が連携し、多様な芸術創造の鑑賞の機会を充実させ、参加と享受を促進します。また、郷土に埋もれた文化的遺産の掘り起こしや再評価をはじめ、鳥取県固有の伝承文化を育成し、対外諸国や県内外にも通用する県民の共有財産として創造発信します。

②【文化人口の拡大とレベルアップ】

生きる歓びと人間の真実を伝えあうことが文化です。感動を共有できる「場」が劇場であり、その感動は県民に等しく提供されなければなりません。県民が生活のなかで豊かな文化を育み、次世代へ伝えていくために、活動実践者・鑑賞者・批評家・支援者の拡大とレベルアップを図ります。また、県内各市町村の文化施設や県外とのネットワークを形成します。

③【多彩な人材育成とキャリア開発】

地元アーティストや文化活動団体への支援をはじめ、職員・活動団体の技術やマネジメント能力の向上とキャリア開発及び次世代を担う若者や後継者の育成を進めます。県内各市町村や地元企業の参加も促し、多彩な人材育成を行います。

④【子どもの文化芸術活動の推進】

文化芸術活動を通じて、子どもの豊かな情緒を育み、感性を磨き、創造性や表現力を養うことは、人生をより深く生きる力を身につけていく上で極めて重要です。子どもが自主的に主体性をもって文化芸術活動に参加し、体験できる環境づくりを、学校などをはじめとする教育機関や地域社会全体と連携して体制を整備し、推進します。

⑤【県民へのサービス推進】

文化芸術のサービスにあたっては、「県民と共に在る」を基本とし、県民の多様な声を聴き、文化的な豊かさへの夢を叶えるよう斬新な発想で業務を行います。いわゆる「顧客満足」の観点に立って高品質なサービスを県内全域に提供し、県民の文化的環境づくりを進めます。

鳥取県 受付 '25.3.-7 文化政策課

倉吉未来中心(中部地域)に特化した基本方針

当財団は、平成13年より倉吉未来中心を受託管理運営し、財団の設置目的である「文化振興に関する各種事業」を、倉吉未来中心を中心とする中部地域において実施してきました。また、平成14年より、中部地域及び倉吉パークスクエアの賑わいの創出と倉吉未来中心の利用促進を目的とした「楽演祭（がくえんさい）」事業をスタートさせました。平成23年度には「楽演祭」の事業内容を下記のとおり鑑賞公演と連動したプレ事業「みらいアートりうむ劇場」と「倉吉未来中心地域活性化事業」とに整理し、地域の文化活動者や団体との協働企画事業として、運営体制や公演内容を一新し、今後も継続して実施します。

※平成23年度から「ARTS FOR EVERYONE楽演祭」事業を２体系へ整理。

「ARTS FOR EVERYONE楽演祭」

○ARTS FOR EVERYONE楽演祭事業**「みらいアートりうむ劇場」**
…鑑賞公演と連動したプレ事業やアフター事業で、利用促進と併せアートマネジャーの育成を目的とする。

○倉吉未来中心地域活性化事業**「みらい音楽堂」他**
…地域の文化活動者や団体との協働企画事業とし、人と人の交流を促進し、地域の活性化を図ることを目的とする。

平成25年度の芸術文化事業の実施については、倉吉未来中心の「中部地域における文化芸術の拠点施設」という施設の性格、「人と人の交流を促進し、地域の活性化を図る」という設置目的及び鳥取県文化振興財団の使命を達成することを見据えた事業を引き続き展開します。

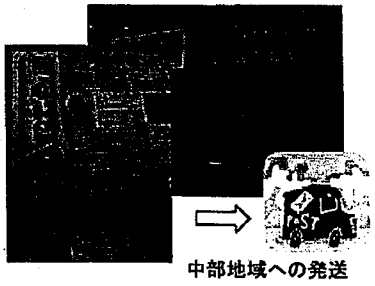
「５つの使命」の業績評価サイクルによる業務推進

⟹ ＰＤＣＡ（目標／成果／課題／展開）による分析

①【文化芸術活動の発信と交流】

[P:目標]

文化芸術活動と交流、情報の発信と収集の拠点として、多様な芸術創造の鑑賞の機会を充実させ、参加と享受を促進します。また、郷土に埋もれた文化的遺産の掘り起こしや再評価をはじめ、鳥取県固有の伝承文化を育成し、対外諸国や県内外にも通用する県民の共有財産として創造発信します。



中部地域への発送

[D：成果]

・「ARTS FOR EVERYONE 楽演祭 アートりうむ劇場」や「倉吉未来中心地域活性化事業」を通じて、誰もが気軽に多様な文化芸術に触れる機会を提供することで、地域への発信及び地域との交流を促進し、中部地区の文化芸術の拠点施設としての役割を果たしました。
・中部地域の文化活動者・団体等と協働して文化芸術活動を発信することで、中部地域での文化活動が活発化しました。
・情報誌「アルテ」や施設を利用したポスター掲示、団体の活動状況を紹介するコーナーの設置、ホームページを通じた公演のチケット情報など、文化団体等の催しの情報発信を行いました。
・情報誌「アルテ」等、紙媒体の広報物については、岡山県北部の主要集客施設への営業、広報活動の結果、設置場所が拡大しました。
・とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）を通して、多くの文化活動者と企画立案から事業実施までを協働し、交流を図りました。

Mecha しぶナイト 2013(24 年度)
ライブハウススタイルの公演

[C：課題]

・情報伝達の手段がアナログ的であり、特に若年層へのＰＲが不足しています。
・とりアートを通じて、行政との連携を図ることができましたが、地域との連携（観光・商店街等）は、より地域に密着した施設運営を行っていくためにも、さらに広げていく必要があります。
・鳥取県固有の伝承文化については、発表の機会提供はしていますが、育成までは至っていません。

［A：展開］
・引き続き、情報誌アルテ等を通して情報発信しつつ、ソーシャルメディアの活用やマスコミとの連携強化を図り、情報の収集や発信をします。
・県民文化会館、中部地域の文化活動者・団体、行政、地元企業（観光・経済）、地域住民などと情報の交流や連携を図り、中部地域の生活に密着した文化芸術活動をより多くの方々に発信します。
・とりアートを通して、文化活動者との連携を一層図り、それぞれの情報や活動の交流を図り、より地域に密着した、活動者自ら文化芸術活動をより楽しめる環境づくりや発表の機会を提供します。
・「倉吉未来中心地域活性化事業」では、施設の利用促進と併せて地域に密着した事業を展開することにより、文化人口の拡大や実施者のレベルアップを図ります。
・また、「ARTS FOR EVERYONE 楽演祭 アートりうむ劇場」では、利用促進・交流も併せた事業の展開と運営体制（協働体制）を引き続き行います。
・中部地域の文化遺産（郷土芸能）の調査を進めます。

②【文化人口の拡大とレベルアップ】

［P：目標］
県民が生活のなかで豊かな文化を育み、次世代へ伝えていくために、活動実践者・鑑賞者・批評家・支援者の拡大とレベルアップを図ります。
また、県内各市町村の文化施設や県外とのネットワークを形成します。

クラシック公演（24年度）

［D：成果］
・倉吉未来中心においては、鑑賞3事業等、年間を通じて各種事業を行うなど、多くの鑑賞機会を提供して、鑑賞者の拡大や実践者のレベルアップ、リピーターの育成を図りました。
・平成24年度においても、白壁土蔵群（赤瓦）の商店等と地域連携の企画を実施して、公演の付加価値を高めるとともに、地域振興を図る取り組みを実施しました。
・次世代に伝えていく取り組みとして、吹奏楽公演の前日に中部地区の中・高校生吹奏楽部員を対象にクリニックを実施し、プロ奏者の指導により、レベルとスキルアップに繋げることができました。
・舞台技術の支援を通じて、中部地域の文化施設とネットワークの構築が徐々にされつつあります。
・平成24年度の鑑賞公演においては、関係者と協力してフェイスブックやツイッター等を活用した広報を実施し、コアなファン層や印刷物を見る環境にない県外の方を取り込むことができました。
・とりアート事業を通して、中部地域の文化活動者との連携が密になり、その活動状況が把握できるようになり、今後の活動に向けてすそ野が広がりました。

ジャズ公演（24年度）

吹奏楽公演（24年度）

［C：課題］
・多くの潜在的鑑賞者開発とその育成を図るための事業を展開してきていますが、継続してその鑑賞者開発と育成を行う事業を実施していく必要があります。
・中部地域の文化施設との協働事業、情報の共有を強化していく必要があります。

［A：展開］
・地域のニーズを収集しながら、より良質な文化芸術公演の鑑賞の場を提供し、鑑賞者の拡大と育成を図ります。
・様々な年代、特に文化に触れる機会が少ないと思われる子どもたちや団塊の世代、男性や障がい者へも文化芸術の素晴らしさや楽しさを感じていただくことのできる事業を展開します。
・倉吉未来中心で行う鑑賞型事業と連動させたプレ又はアフター事業を実施し、参加者を継続的かつ横断的な鑑賞者へと導きます。
・中部地域の文化芸術拠点施設としての役割を果たすとともに、文化人口の拡大のため中部地域の文化施設などと積極的な連携を図りながら、舞台技術等の支援も継続して行ないます。
・平成25年度からは、財団が主体的にフェイスブックやツイッター等のソーシャルメディアを活用して、若年層やコアなファン層を獲得するための取り組みを行う予定です。

吹奏楽公演クリニック（24年度）

③【多彩な人材育成とキャリア開発】

［P：目標］

地元アーティストや文化活動団体への支援をはじめ、職員・活動団体の技術やマネジメント能力の向上とキャリア開発及び次世代を担う若者や後継者の育成を進めます。県内各市町村や地元企業の参加も促し、多彩な人材育成を行います。

［D：成果］

・全国公立文化施設協会や地域創造などのアートマネジメント研修や舞台技術研修、キャリア研修等を通じて、職員のマネジメント能力及び技術力の向上とキャリア開発を行いました。
・中部地域の民間団体や文化施設等に技術支援を行い、舞台設備の調整や技術の向上を図りました。
・「アートりうむ劇場」において、平成24年度はアートマネージャー4名を育成しました。
・インターンシップ制度の大学生2名を受け入れて、アートマネジメントの実践を学ぶ機会を提供しました。
・平成23年度のヤングプロデューサーシリーズで起用されたプロデューサーが、平成24年度はとりアート中部地区の運営委員兼アートマジネャーとして参画するなど、意欲的に活動の幅を広げています。
・とりアートの中部地区企画運営委員会は、平成24年度から新たな委員を選任しましたが、倉吉未来中心の職員が経験の少ない企画運営委員やアートマネジャーの後見役となってアートマネジメントの手法を伝播させました。

技術支援（舞台照明研修会）（24年度）

［C： 課題］

・文化活動団体や活動者への技術支援に取り組んでいますが、今後もニーズに沿って計画的に実施して、支援、育成を図る必要があります。
・若手職員が多くなっているため、キャリアに沿った人材育成を進める必要があります。

［A： 展開］

・平成25年度は舞台技術講座を開催して、文化活動団体・活動者への支援を積極的に行ない、地域における人材育成を進めます。また、職員のキャリア開発を行なうため、県内外のアートマネジメント研修やキャリア研修などに計画的に参加させていきます。
・中部地域の才能あるアーティストが出演する公演等を開催し、若いアマチュア活動者への刺激と育成となる事業を展開します。
・「アートりうむ劇場」を通じて、地域と活動者を繋ぐアートマネジャーを育成していきます。
・これまでに育成したアートマネジャーを地域活性化事業やとりアートに積極的な参加を促し、活動の幅を広げる機会を提供します。

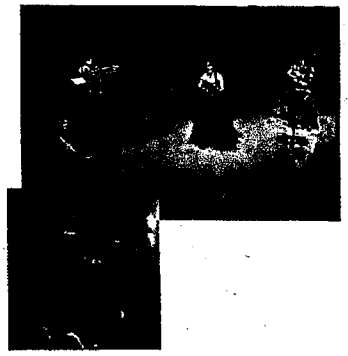
④【子どもの文化芸術活動の推進】

［P：目標］

子どもが自主的に主体性をもって文化芸術活動に参加し、体験できる環境づくりを、学校などをはじめとする教育機関や地域社会全体と連携して体制を整備し、推進します。

［D：成果］

・教育機関と共催して高校演劇ワークショップを開催し、次世代の県内演劇界を担う若者の育成を図りました。
・普段中々コンサートに来場することができない乳幼児とその家族に対して、0歳から参加できるパイプオルガンのコンサートを開催し、たくさんの親子に文化芸術に親しむ機会を提供しました。
・とりアート中部地区事業の中で、教育機関や活動団体との連携により、子どもたちの絵画コンクールへの参加やステージ出演がありました。また、新たな若者の参画も図られるとともに、中部地域で唯一の少年少女合唱団の活動を継続して行い、推進しました。
・中部地域の児童・生徒たちに施設見学を通じて、中部地域の文化芸術の拠点施設を身近に感じてもらう機会としました。



オルガンコンサート（24年度）

［C：課題］
子どもたちが文化芸術に主体的に参加・体験できる場や次世代育成の場の提供を財団事業、とりアート地区事業等を通じて、引き続き推進する必要があります。

施設見学
（24年度）

［A：展開］
・子どもたちに優れた文化芸術を「鑑賞する場」を提供するとともに、「参加する場」、「体験する場」、「発表する場」も併せて提供し、教育機関との連携も図りながら、子どもや親子がより安心して文化芸術に触れ合える環境づくりを推進します。
・財団事業（とっとりの芸術宅配便等）や「芸術鑑賞教室」事業、とりアート等を通じて、学校を対象とした芸術鑑賞の機会を県民文化会館と連携しながら引き続き展開していきます。

⑤【県民へのサービス推進】
［P：目標］
文化芸術のサービスにあたっては、「県民と共に在る」を基本とし、県民の多様な声を聴き、文化的な豊かさへの夢を叶えるよう斬新な発想で業務を行います。いわゆる「顧客満足」の観点に立って高品質なサービスを県内全域に提供し、県民の文化的環境づくりを進めます。

［D：成果］
・平成24年度においても、来館者にとって「安心・安全」な施設となる運営に努めました。
・法令遵守の徹底を図るとともに、危機管理や個人情報保護についても、基本マニュアルは既に作成し、実践していますが、新たな事象に対しては、その都度マニュアルを改正して実践しています。
・利用者の視点に立った施設運営を行なうとともに、利用者の声を反映させるため、改善ができるものは迅速に改善し、サービスの推進に努めました。
・平成24年度は、利用者の声を反映して、使い勝手の良い移動式パネルを追加購入するとともに、備品の充実やインフォメーションディスプレイを増設して、利用者へのサービスを促進しました。

［C：課題］
・備品や設備機器の充実も促進していますが、一方では施設・設備の経年劣化が進んでおり、また、ＩＴ技術の進化に対応できる機器の更新が遅れています。施設利用やチケットのオンラインシステムの導入については、要望に対応できていません。
・平成24年度は、大ホールの利用率が前年度に比べて大きく落ち込みました。地域住民に公演鑑賞の機会提供や施設を活用して地域の活性化を図るためには、利用率を上げるための継続した取り組みが必要です。
・平成25年度は、これまで行ってきた事業及び施設利用に係るサービスや取り組みなどを改めて見直します。

［A：展開］
・ホールの大規模改修や最新機器に対応する設備の更新は徐々に進んでいますが、現在年次計画的に進めています。
・経費的問題や施設利用の形態から、現時点ではオンラインシステムの導入は見送っています。今後、県民のニーズやシステムの開発状況等に注視しながら、引き続き検討事項とします。
・平成25年度も館長以下職員による県外プロモーターや県内企業、行政、学校などへの営業活動を積極的に行っていきます。
・利用者の声を受けて、大ホールの新しい利用プランを平成25年度中に策定します。
・公立施設のあり方と県民ニーズを把握しながら、さらなるサービスや取り組みを検討していきます。

(2)平成25年度事業計画

●鳥取県立倉吉未来中心の管理運営

鳥取県及び倉吉市（中部町村分担金を含む）からの委託を受け、倉吉未来中心の円滑な管理運営を行います。

1　施設管理及び利用業務

2　利用促進及び支援業務

（1）ＡＲＴＳ　ＦＯＲ　ＥＶＥＲＹＯＮＥ 楽演祭「みらいアートりうむ劇場」の実施

（2）「倉吉未来中心地域活性化事業」の実施

①ホール探検ツアー

②ベーゼンドルファーピアノ演奏体験＆ワークショップ・ミニコンサート

③みらいアートギャラリー

④みらい音楽堂

⑤カフェ・クラシック（仮称）

⑥Mecha しぶナイト倶楽部 2014

⑦パイプオルガンわくわくランド（パイプオルガン活用事業）

（3）舞台技術の助言と支援

（4）舞台技術に関する人材を育成するための「舞台技術講座」の実施

3　平成２５年度中四国ブロック技術研修会の開催

劇場・音楽堂等の技術職員に専門的な研修を行う「平成２５年度中四国ブロック技術研修会（主催：文化庁・全国公立文化施設協会、主管：全国公立文化施設協会中四国支部）」の開催館として、運営にあたります。

開催期間：平成２６年１月２２日（水）～１月２３日（木）

2 芸術文化の振興に関する業務について

・　文化に触れ親しむことで、私たちは、楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びを感じ、人生を豊かにすることができます。また文化を豊かにすることは、人と人を結びつけ相互に理解し尊重し合う、地域基盤創造の推進力になります。そこで、倉吉未来中心が「人と人との交流を促進し、地域の活性化を図る」という設立目的・理念を達成するために、施設の管理・運営に併せ、地域の特性を活かした文化事業を実施することは重要な使命と考えます。

・　倉吉未来中心における文化事業の実施については、鳥取県文化振興財団の「５つの使命」に基づき、これまでの経験や知識、技術、そして平成13年から受託運営してきたノウハウと地域と人とのコミュニケーションを一層活かします。また、**平成21年度より財団の５年間の芸術文化振興の基本的考え方として策定した《Ａ４Ｅ》《Ｃ４Ｅ》（詳細は後述）を基本に**、さらに多くの方々に文化に触れ、親しんでいくことを目指します。

・　中部地域住民の参画や協働により実施してきた「楽演祭（がくえんさい）」事業は平成23年度よりARTS FOR EVERYONE 楽演祭事業と倉吉未来中心地域活性化事業に整理しました。本年度は昨年度の成果と課題を整理し、より地域に密着した文化事業の充実と倉吉パークスクエアを中心とする地域の活性化を目指します。また、文化振興財団（県民文化会館）が全県下で実施する鑑賞事業、育成・創造事業もより中部地域を意識して展開します。

・　地域の文化団体や文化施設、さらに倉吉パークスクエア内の他施設、教育機関、地方公共団体等との連携を図るとともに、地域の活性化のため、文化と経済・観光との連携を引き続き模索します。

財団としての芸術文化振興実施の基本的考え

地域における芸術文化の振興の要は、主体的に芸術文化活動を行う人材を育成することにあります。一言で言うと、**「人づくり」**です。従来から実施してきました芸術文化事業の実績から、芸術文化活動に参加する人々が少しずつ増加し、新たな人材や日頃文化に親しみがない方が多く掘り起こされました。その成果をさらに拡大するため、引き続き、発掘された人材を鳥取文化の未来を担っていくための貴重な財産として豊かに育むべく、**「人材育成」から「人財育成」への発展的事業展開**を図ります。

また、その「人財」が豊かに育まれるための環境整備を行う必要があると考え、多角的な基盤整備の元に事業を実施します。

⇩

「事業ミッション」《A4E》と「推進ミッション」《C4E》の策定

ー事業ミッションー

Arts For Everyone 《A4E》
－ アートはみんなのために！ －

事業コンセプト
「地域の芸術文化を育んでいくための
「人財育成」と「基盤整備」4の誓い」

⇕

ー推進ミッションー

Connecting For Everyone 《C4E》
－ みんなを紡ぐ！ －

推進コンセプト
みんなを紡いでいくための
「推進方法」と「効果的サービス」4の戦略

事業のシンボルマークは？

事業実施におけるシンボルマークは、「４つ葉のクローバー」としました。４つ葉のクローバーは偶然に発見すると、幸運が訪れるという伝説があります。4つの葉の意味は、「希望」「誠実」「愛情」「幸運」であり、いずれも芸術文化活動にとって、人間が生きていく上で大切かつ必要不可欠なキーワードです。私たちは、この４つ葉のクローバーを芸術文化振興のシンボルとして掲げ、その意味内容を具体的な事業の中で具現化していきたいと考えています。

ARTS FOR EVERYONE
アートはみんなのために！

事業ミッション《A4E》と推進ミッション《C4E》、及び倉吉未来中心におけるコンセプトのとらえ方

ー事業ミッションー

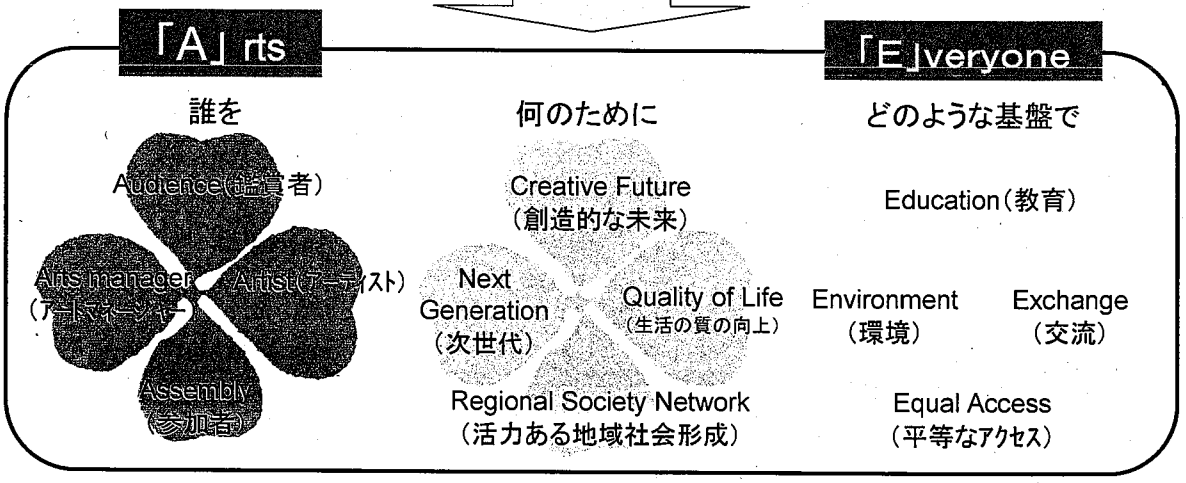
Arts For Everyone！
（アートはみんなのために！）

・事業コンセプト・

地域の文化芸術を育んでいくための

「人財育成」と「基盤整備」4の誓い

A4E



「Arts For Everyone」とは？

芸術文化は誰でもが参加でき、享受できるという文化権の保障及び、芸術文化への平等なアクセス権の確保を明確に、率直に、県民の方々へ投げかけたいと考えています。芸術文化は一部の文化愛好者や富裕層のために存在しているのではなく、すべての方々が等しく参加・享受できる活動です。また、敷居が高く感じられる芸術をいかにわかりやすく適切にプロモートし、文化に親しみやすい環境をつくりだし、生活の中にある文化として感じていただける努力や配慮が必要だと心得ています。その願いを込めて、**アートがみんなのものになる**ために、我々スタッフは全身全霊を傾けて芸術文化の発展に寄与します。

倉吉未来中心事業における事業コンセプト「地域の文化芸術を育んでいくための《人材育成》と《基盤整備》の方針」

【１】人財・・・地域の芸術文化を育んでいくために誰を育成するのか。

鳥取県文化振興財団では次の４つの人材を段階的に増加させ育成することとしています。①鑑賞者 ②アートマネジャー ③参加者（支援者） ④アーティスト。このうち倉吉未来中心においては**「③参加者 Assembly（支援者）」**の育成を中心に推進します。特に今後、地域の文化振興の次世代を担っていく若い年代の育成を直接的・間接的に図っていきます。将来的に参加者の育成が鑑賞者の育成へと繋がっていくことも視野に入れて実施します。

【２】育成方針・・・何のために育成するのか。

豊かな素材としての人材から財産価値の高い人財への育成を図るため、当財団では ①創造的な未来のために ②次世代のために ③活力ある地域社会の形成のために ④生活の質の向上のために、以上４つの誓いを掲げています。このうち倉吉未来中心では施設の設置目的に沿って**「③活力ある地域社会の形成のために」** という誓いを主眼におき育成を図ります。

【3】基盤整備・・・育成するためにはどのような基盤整備が必要なのか

人財育成のための基盤整備の方針として、財団の目指す４つの誓い、①教育 ②環境 ③平等なアクセス ④交流 を掲げています。このうち、倉吉未来中心においては、特に**「④交流」**という基盤整備の方針を中心に、情報の交流、様々な文化ジャンルの交流、世代間の交流、中部地域と鳥取県内外との交流を図り、人財の育成を推進します。

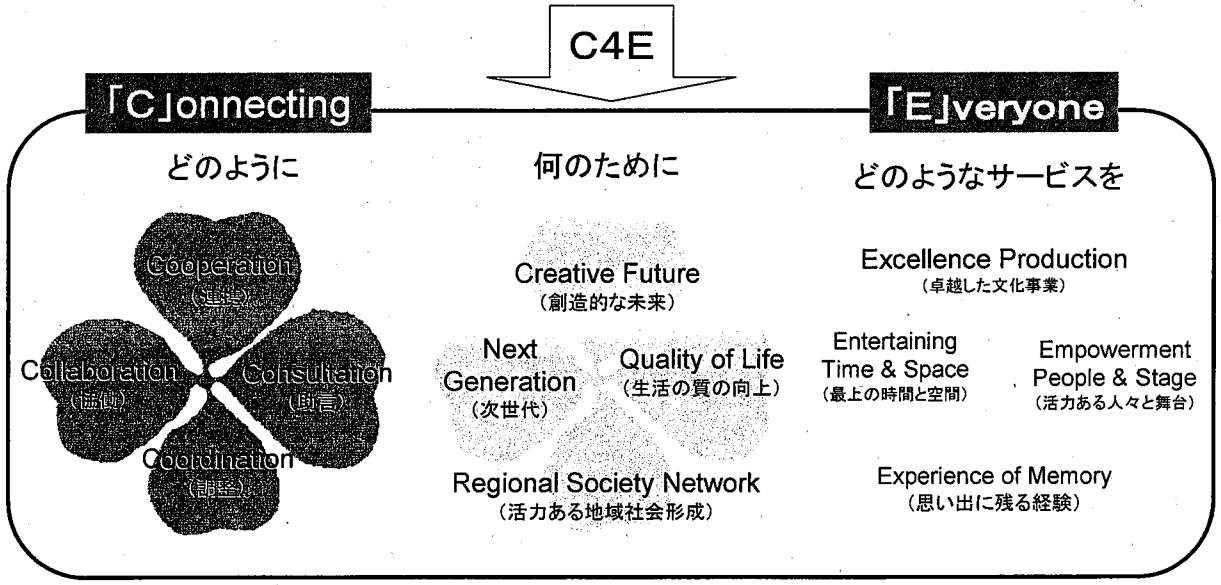
ー推進ミッションー

Connecting For Everyone！
（みんなを紡ぐ！）

・推進コンセプト・

みんなを紡いでいくための

「推進方法」と**「効果的サービス」**4の戦略



「Connecting For Everyone」とは？

「改革の基本方針」の策定後、平成 18 年度以降の指定管理期間において、県内文化活動者の発掘と育成を推進してまいりました結果、豊かな人材が県内に複数点在する状態が生まれてきました。その**「点」としての「人材」を、「面」としての「人財」に育てていくこと**が指定管理期間における課題であると認識しています。そのためには、「人財」と「人財」を「紡いで」いくこと、また、その「人財」と共に県内文化芸術活動を活性化していくことが重要かと考えています。「Connecting」には、「結ぶ」「連結する」「結合する」といったような意味が含まれており、特に「Co」の意味するところは、「共に」「一緒に」などの協働の精神が含まれています。今後の事業推進にあたっても、さらに人と人との結びつきを深めながら、鳥取文化の発展に寄与します。

倉吉未来中心事業における推進コンセプト「みんなを紡いでいくための《推進方法》と《効果的サービス》の方針」

【1】手法・・・みんなと芸術文化をどのように紡いでいくのか。

創造的な芸術文化活動や公益的な文化事業においては、人と人が「つながり」を重視して作品創作に取り組むことが求められます。鳥取県文化振興財団として、県民の方々と共に**連携**し、**協働**し、**調整**し合いながら、我々が持てる専門性を**アドバイス**し、ノウハウを地域社会の中で活かしていきたいと考えています。

倉吉未来中心においては、特に中部地域の文化活動者や団体との**連携**を意識し、**"共に創る"** 文化事業をとおして地域の活性化を図ります。

【2】紡ぐ目的・・・何のために紡ぐのか。

芸術文化による明るい未来や活力ある地域社会の形成と発展は、豊かな自然と文化、歴史に育まれた郷土鳥取を創造的な文化都市にしていきたいという素朴な願いです。地域社会を再生していく力の源は、その地域の文化をどのように育んでいくかということに繋がります。

当財団の使命でもある**「芸術文化による社会貢献活動の推進」**を達成するために、倉吉未来中心における地域の方々との協働は、倉吉未来中心の使命にも繋がる**活力ある地域社会の形成**をその目的の主眼とします。

【3】効果的サービス・・・紡いでいくためにどのようなサービスを提供するのか。

私どもの事業計画は、倉吉未来中心を主な会場として、県民文化会館やその他の県内文化施設、県内文化団体などとの**連携**を図り、特に**中部地域の活性化**に繋がる事業としています。

中部地域においては、活力ある地域社会形成を目指し、地域の方々と協働することにより、まずは**人々の活躍の場としての舞台（劇場）**をソフト・ハードの両面で提供していくことが、地域に対するサービスの提供と考えています。併せて、人と人とを紡いでいくために欠かせない効果的サービスとしての、卓越した文化事業、最上を楽しめる時間と空間、思い出に残るような経験の提供も、財団全体として努めます。

倉吉未来中心事業における事業計画の考え方及び見直しのポイント

倉吉未来中心における文化事業は先指定期間（H18～20）と本指定期間中（H21～H24）の成果として、地元文化活動者の発表の場の提供、倉吉パークスクエアを中心とした中部地域の賑わいの創出や施設の利用促進を目的とした「倉吉未来中心地域活性化事業」の展開と定着化を引き続き図ることができました。また、文化振興財団の実施事業である鑑賞公演の実施や、育成・創造事業の中部地域における展開により、地域からも高い評価を得ることができました。

平成25年度に実施する事業についても、今までの成果を十分踏まえた上で、発展的な事業展開を目指したいと考えています。以下の項目が継続した見直しのポイントです。

ア　**活躍（出演）機会の場の提供から、交流と育成・地域の活性化の場へ**

イ　**《A4E》《C4E》による取組**

- **○ A4E：活力ある地域社会形成のため、様々な交流による参加者や協働推進者の育成**
- **○ C4E：地域との連携による事業推進による、地域と人々の活性化**

ウ　**文化振興の支援者でもある文化事業の協働推進者が倉吉未来中心を活動の拠点とし、施設利用の促進と安定化を図る**

エ　育成・創造事業・アウトリーチと鑑賞公演との連動

オ　アーティスト主導からプロデューサー及びアートマネジャー主導へ

カ　トップレベルの文化活動者や財団スタッフによるバックアップ体制及び若者参画運営

キ　文化施設、文化団体、文化活動者への財団のもつノウハウや技術によるバックアップ体制の強化と整備

(1)-1 施設を利用して行なう芸術文化事業の事業企画及び収支計画等

鳥取県民文化会館との連携による中部地域における文化振興事業の推進

鳥取県文化振興財団では鳥取県民文化会館に文化振興事業を推進する部署（企画制作部）を置き、鳥取県全体の文化振興の拠点として、基本方針の「５つの使命」に沿って事業を引き続き展開します。
中部地域においては、倉吉未来中心に文化振興事業担当スタッフを配置し、人と人との交流を促進し、地域の活性化を図るため、倉吉未来中心で様々な年代（子ども、青少年、若者、中高年）が気軽に、そしてより深く文化に親しめる事業や、文化活動者がより主体的に参加できる事業を継続して実施します。また、地域の文化団体や文化施設、活動者などと連携した事業も推進します。

倉吉未来中心における文化芸術事業は、鳥取県文化振興財団の「５つの使命」と引き続き取り組もうとする事業コンセプト（A4E、C4E）に基づき、これまで実施してきた文化振興事業の経験や知識、技術を活かして実施します。さらに、**倉吉未来中心を平成１３年から受託運営してきたノウハウや地域と人とのコミュニケーションを一層活かし、より多くの方々に文化に触れ、親しんでいくこと**を目指します。

① 鑑賞事業 《施設や地域の特性を生かした優れた舞台芸術作品鑑賞事業の実施》

鳥取県文化振興財団の主催事業のうち、県民に優れた舞台芸術作品を鑑賞する機会を提供するため、鑑賞事業を倉吉未来中心を利用して引き続き開催します。

事業選定については、県民がいつでも企画提案でき、内部の企画戦略会議や理事・評議員なども含む企画検討会議を経て、中部地域のニーズやホールの特性の生かせる事業を決定します。公演にはワークショップを連動させたり、企画や運営を文化活動団体、地方公共団体、マスコミなどとも連携し、協働企画の推進を図りながら実施します。

《平成25年度の鳥取県文化振興財団の事業企画の柱》

事業企画として、以下の項目の達成を目指します。

- **ア** 施設の特性を活かした事業を展開します。
- **イ** 県内の文化施設において、国内外の質の高い舞台公演の鑑賞機会を提供します。
- **ウ** 幅広いジャンルから県民のニーズに対応する上質な文化芸術の鑑賞機会を提供します。
- **エ** 県内外の文化施設と連携した事業を推進します。
- **オ** 男性鑑賞者の拡大を図る事業を実施します。
- **カ** 親と子が文化芸術に親しむことができる鑑賞機会を提供します。
- **キ** 地域の文化活動者・団体と連携し、施設がより“まちの広場”として賑わいを創出する事業を展開します。
- **ク** 国、公益法人、企業の資源を活用した事業を展開します。

⇩

《平成25年度の倉吉未来中心の事業企画の柱》

- **ア** 中部地域の芸術文化振興拠点として、特に中部地域との連携による事業を展開し、文化を通して人と地域がより豊かで活力ある地域づくりをめざします。
- **イ** 県民文化会館と連携し、国内外の優れた舞台芸術作品の鑑賞の機会を提供するとともに、幅広い年代に文化芸術に触れることのできる機会を提供します。
- **ウ** 男性鑑賞者の拡大や若い世代の育成を図り、世代間の交流のある、未来に繋がる文化振興による地域づくりをめざします。
- **エ** 親と子が文化芸術に親しむことができる鑑賞機会を提供します。

【平成18～24年度までの7年間の開催実績】

- クラシック……８公演（うち３公演はワークショップ実施）
- 吹奏楽……１公演（小ホール平土間ライブハウススタイル）
- ジャズ……６公演（うち３公演は小ホール平土間ライブハウススタイル）
- ミュージカル……２公演（地元まちづくり団体と共催）
- 親子向けミュージカル…１公演（おや子劇場提案・協力）
- 落語……１公演
- 狂言……１公演
- 親子向け演劇……１公演（おや子劇場提案・協力）
- 演劇……１公演
- 歌劇……１公演（マスコミと共催）
- その他……３公演（和太鼓１公演、コラボ２公演）

ジャズ公演（プレ公開リハーサル）

クラシック公演（プレ公演）

吹奏楽公演（プレワークショップ）

ライブハウススタイル（バーカウンター）

平成25年度の倉吉未来中心（中部）における財団企画事業（鑑賞事業）の実施方針 ポイント

- **鑑賞事業の事業数**・・年間３事業程度
- **選定のポイント**・・・ ①若い文化活動者が目標とすることができる優秀なアーティストの公演
  ②ワークショップやレクチャー講演を連動させた公演
  ③施設の特性や地域のニーズの高い芸術性のある公演
  ④男性鑑賞者の拡大を図る公演
  ⑤家族や親子で文化芸術に触れることのできる公演
- **ジャンル**・・・・・・ 音楽２公演（ジャズ、親子向けクラシック）、演劇１公演

《収支計画（鑑賞事業）》（財団で予定する全県全９事業の概算額）

年　度	事業経費	財　源	
		入場料収入	その他
平成25年度	66,138千円	53,570千円	基本財産運用益、基金特別会計繰入金、助成金他

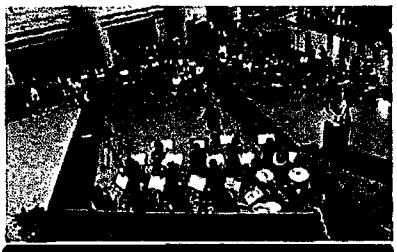
② 地域との協働事業 《地域の文化活動者と共に創り、多くの人々が文化に接する機会を提供する事業》

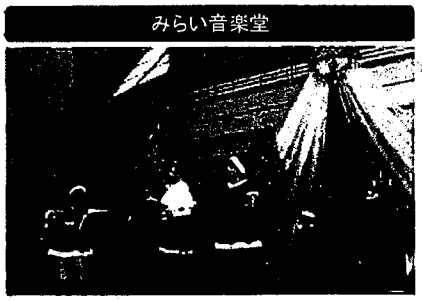
ARTS FOR EVERYONE 楽演祭（継続）
《平成 18～24 年度の取り組み》

ア）アトリウムを利用した文化事業の実施 「みらいアートりうむ劇場」、「みらい音楽堂」

オープンスペースのアトリウムには、倉吉未来中心の利用者や来場者が数多く行き来します。このアトリウムを会場に、地域の文化活動者が企画制作した文化事業を開催することにより、文化に興味のない方にも自然と文化に触れていただく機会をつくります。平成21年度まで開催してきた「アトリウムＬＩＶＥ」や平成22年度から始まった「みらいアートりうむ劇場」、「みらい音楽堂」（「パイプオルガンの夕べ」は21年度まで）では、毎回100～300名の多くの来場者に触れていただきました。

財団主催事業でなく、実行委員など協働推進者自らが企画し運営する事業が生まれ、利用者としてアトリウムを活用した文化事業が誕生しています。


みらいアートりうむ劇場


みらい音楽堂

イ）小ホールの新しい活用方法の提言、平土間ライブハウススタイル

ライブハウススタイルのアマチュアバンドライブ

近年、倉吉市内や中部地域では音楽愛好者が楽しめるライブハウスがほとんど残っていません。倉吉未来中心の小ホール平土間仕様はもともとレセプションなどが想定され、ホール内でのアルコールを含む飲食（時間の制約はあるが）が可能な施設となっています。その利用条件とホールの音響特性を活用し、小ホールを一時的なライブハウススタイルとして実施したのが、平成17年度からスタートした、アマチュアバンドによるライブです。近年、この事業の協働推進者自ら、貸館としてこのスタイルでの施設利用が始まっています。

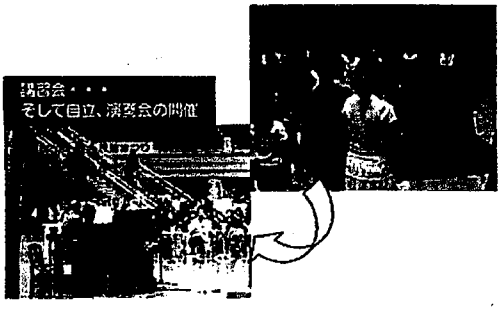
文化活動者、実行委員会、ボランティアスタッフとの連携

実行委員・ボランティア
スタッフによる舞台つくり

みらい音楽堂、みらいアートりうむ劇場、及びアマチュアバンドライブでは、地元文化活動者との協働による運営や、財団（倉吉未来中心）ホールボランティアによる舞台セットの製作、音響・照明操作、当日運営が行われるなど、地域とともに運営される事業と成りました。

楽演祭事業から独立・・・「パイプオルガンの会」

身近にその奏法を習得することが困難なこの楽器の普及と、愛好者の拡大を狙い、開館当初の平成13年度から“パイプオルガンの夕べ”を実施してきました。平成15年度からプロのオルガニストを講師に迎え、本格的な講習会、そしてより身近にパイプオルガンを感じていただくための「体験ワークショップ」をスタートさせました。現在、その参加者が**「オルガンの会」**を設立。倉吉未来中心事業からは独立した形で、不定期ですが、演奏会を小ホールやアトリウムで自主開催しています。


講習会・・・
そして自立、演奏会の開催

【平成20～24年度までの5年間の実施実績】

事業名（催物名）	開催場所	内　　容
平成20年度　倉吉未来中心「楽演祭」事業		
みらいアートギャラリー	ｾﾐﾅｰ棟廊下	ｾﾐﾅｰ棟廊下廊下壁面を、絵画、写真等の作品発表の場として提供
アトリウムLIVE	ｱﾄﾘｳﾑ	「フォーク大全集2008」
アトリウムLIVE Special 「Mechaしぶナイト倶楽部2009」	小ﾎｰﾙ	ﾗｲﾌﾊｳｽﾞｽﾀｲﾙでの県内ｱﾏﾁｭｱﾊﾞﾝﾄﾞによるﾗｲﾌﾞ
パイプオルガン講習会	ﾘﾊｰｻﾙ室	ｵﾙｶﾞﾝの利用促進を目的に開催
パイプオルガンの夕べ	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝ講習会参加者によるｺﾝｻｰﾄ
カフェ・バレンタイン	小ﾎｰﾙ	ｶﾌｪｽﾀｲﾙによるﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝｺﾝｻｰﾄ
平成20年度　倉吉未来中心　自主企画事業		
ホールたんけんツアー	大ﾎｰﾙ	普段見ることのできない舞台の裏側を見学
平成21年度　倉吉未来中心「ARTS　FOR　EVERYONE　楽演祭」事業		
みらいアートギャラリー	ｾﾐﾅｰ棟廊下	ｾﾐﾅｰ棟廊下廊下壁面を、絵画、写真等の作品発表の場として提供
Café-NOUVEAU 斉藤浩ツインバロン・リサイタル	小ﾎｰﾙ	1ﾄﾞﾘﾝｸ付のﾂｲﾝﾊﾞﾛﾝｺﾝｻｰﾄ
ポジティフ・オルガン講習会	ﾘﾊｰｻﾙ室	ｵﾙｶﾞﾝの利用促進を目的に開催
ポジティフ・オルガン発表会	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝ講習会参加者によるｺﾝｻｰﾄ（名称変更）
Café-VALENTINE	小ﾎｰﾙ	ｶﾌｪｽﾀｲﾙによるﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝｺﾝｻｰﾄ
Mechaしぶナイト倶楽部2010	小ﾎｰﾙ	ﾗｲﾌﾞﾊｳｽｽﾀｲﾙでの県内ｱﾏﾁｭｱﾊﾞﾝﾄﾞによるﾗｲﾌﾞ
平成21年度　倉吉未来中心　自主企画事業		
ベーゼンドルファーピアノ演奏体験	大ﾎｰﾙ	ﾋﾟｱﾉの利用促進を目的に開催
ホールたんけんツアー	大ﾎｰﾙ	普段見ることのできない舞台の裏側を見学
平成22年度　倉吉未来中心「ARTS　FOR　EVERYONE　楽演祭」事業		
みらいアートりうむ劇場vol.1	ｱﾄﾘｳﾑ	千葉県少年少女ｵｰｹｽﾄﾗとｱｷﾗさんの大発見ｺﾝｻｰﾄﾌﾟﾚ事業「夏休みわくわくﾌﾞﾗｽﾜｰﾙﾄﾞ」
みらいアートりうむ劇場vol.2	ｱﾄﾘｳﾑ	仲道郁代ｼｮﾊﾟﾝ鍵盤のﾐｽﾃﾘｰﾌﾟﾚ事業「ﾋﾟｱﾉで楽しむ昼下がり」
みらいアートりうむ劇場vol.3	ｱﾄﾘｳﾑ	林家正蔵と佐山雅弘のｼﾞｬｽﾞ落語ﾌﾟﾚ事業「一日限りのｼﾞｬｽﾞ喫茶」
小林愛実ピアノ・リサイタル	小ﾎｰﾙ	15歳のﾌﾟﾛﾋﾟｱﾆｽﾄによるｺﾝｻｰﾄ
平成22年度　倉吉未来中心　自主企画事業		
みらいアートギャラリー	ｾﾐﾅｰ棟廊下	ｾﾐﾅｰ棟廊下廊下壁面を、絵画、写真等の作品発表の場として提供
みらいアートギャラリー【特別展】	ｱﾄﾘｳﾑ	年に1回、ｱﾄﾘｳﾑで特別展を開催
ベーゼンドルファーピアノ演奏体験	大ﾎｰﾙ	ﾋﾟｱﾉの利用促進を目的に開催
パイプオルガン演奏体験	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝの利用促進を目的に開催
ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝ生演奏会	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝ講習会受講生により結成したｸﾞﾙｰﾌﾟによる演奏会
ホールたんけんツアー2010	大・小ﾎｰﾙ	普段見ることのできない舞台の裏側を見学
みらい音楽堂vol.1	ｱﾄﾘｳﾑ	七夕ｺﾝｻｰﾄ「ｱｶﾍﾟﾗｻｰｸﾙ：D-cube」
みらい音楽堂vol.2	ｱﾄﾘｳﾑ	ｸﾘｽﾏｽｺﾝｻｰﾄ「倉吉ｷﾞﾀｰｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ」
みらい音楽堂vol.3	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾞﾚﾝﾀｲﾝｺﾝｻｰﾄ「ﾄﾗｳﾞｪ」
みらい音楽堂ｽﾍﾟｼｬﾙ Mechaしぶナイト倶楽部2011	小ﾎｰﾙ	ﾗｲﾌﾞｽﾀｲﾙでの県内ｱﾏﾁｭｱﾊﾞﾝﾄﾞによるﾗｲﾌﾞ
平成23年度　倉吉未来中心「ARTS　FOR　EVERYONE　楽演祭」事業		
みらいアートりうむ劇場vol.4	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾄﾞﾗﾝｺﾞﾝｸｴｽﾄ　ｽﾍﾟｼｬﾙｺﾝｻｰﾄﾌﾟﾚ事業 「小椋順二ホルンコンサート」
みらいアートりうむ劇場vol.5	ｱﾄﾘｳﾑ	鼓童ﾜﾝ・ｱｰｽ・ﾂｱｰﾌﾟﾚ事業 「佐渡の和太鼓がやってくる」

みらいアートりうむ劇場vol.6	ｱﾄﾘｳﾑ	柄本明ひとり芝居「風のｾｰﾙｽﾏﾝ」 ﾌﾟﾚ事業「ひとり芝居をしましょうか。」
平成23年度　倉吉未来中心地域活性化事業		
みらいアートギャラリー	ｾﾐﾅｰ棟廊下	ｾﾐﾅｰ棟廊下廊下壁面を、絵画、写真等の作品発表の場として提供
みらいアートギャラリー【特別展】	ｱﾄﾘｳﾑ	年に1回、ｱﾄﾘｳﾑで特別展を開催
ベーゼンドルファーピアノ演奏体験	大ﾎｰﾙ	ﾋﾟｱﾉの利用促進を目的に開催
ベーゼンドルファーピアノ ワークショップ	大ﾎｰﾙ	ﾍﾞｰｾﾞﾝﾄﾞﾙﾌｧｰﾋﾟｱﾉ専門調律師によるﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
パイプオルガン演奏体験	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝの利用促進を目的に開催
ホールたんけんツアー2011	大・小ﾎｰﾙ	普段見ることのできない舞台の裏側を見学
みらい音楽堂vol.4	ｱﾄﾘｳﾑ	七夕ｺﾝｻｰﾄ「箏・十七絃」
みらい音楽堂vol.5	ｱﾄﾘｳﾑ	ｸﾘｽﾏｽｺﾝｻｰﾄ「ﾄﾗﾝﾍﾟｯﾄとｸﾗﾘﾈｯﾄの調べ」
みらい音楽堂vol.6	ｱﾄﾘｳﾑ	ｸﾘｽﾏｽｺﾝｻｰﾄ「ﾏﾘﾝﾊﾞの魅力満載！」
みらい音楽堂vol.7	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾞﾚﾝﾀｲﾝｺﾝｻｰﾄ「ﾌｫｰｸ」
みらい音楽堂ｽﾍﾟｼｬﾙ Mechaしぶナイト倶楽部2012	小ﾎｰﾙ	ﾗｲﾌﾞｽﾀｲﾙでの県内ｱﾏﾁｭｱﾊﾞﾝﾄﾞによるﾗｲﾌﾞ
倉吉未来中心開館10周年記念事業	大ﾎｰﾙ	ＮＨＫのど自慢
平成24年度　倉吉未来中心「ARTS　FOR　EVERYONE　楽演祭」事業		
みらいアートりうむ劇場vol.7	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾋﾞｰﾄﾙｽﾞ＆ｸｨｰﾝ ﾛﾝﾄﾞﾝ･ｸﾗｼｯｸｽ 1966ｶﾙﾃｯﾄ ﾌﾟﾚ事業 「トーク＆ミニコンサート」
みらいアートりうむ劇場vol.8	ﾘﾊｰｻﾙ室	MALTAﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝﾄｺﾝｻｰﾄ倉吉公演 ﾌﾟﾚ事業 「公開リハーサル＆ミニコンサート」
みらいアートりうむ劇場vol.9	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾌﾞﾗｯｸ･ﾎﾞﾄﾑ･ﾌﾞﾗｽ･ﾊﾞﾝﾄﾞ倉吉公演 ﾌﾟﾚ事業 「ブラスコンサート＆ワークショップ」
平成24年度　倉吉未来中心地域活性化事業		
みらいアートギャラリー	ｾﾐﾅｰ棟廊下	ｾﾐﾅｰ棟廊下廊下壁面を絵画、写真等の作品発表の場として提供
みらいアートギャラリー【特別展】	ｱﾄﾘｳﾑ	年に１回、ｱﾄﾘｳﾑで特別展を開催
ベーゼンドルファーピアノ ワークショップ	大ﾎｰﾙ	ﾍﾞｰｾﾞﾝﾄﾞﾙﾌｧｰﾋﾟｱﾉ専門調律師によるﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
ベーゼンドルファーピアノ演奏体験	大ﾎｰﾙ	ﾋﾟｱﾉの利用促進を目的に年２回開催
みらいオルガンプロムナード	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝ愛好者によるﾐﾆｺﾝｻｰﾄ
親子で楽しむ　ハッピー♪スマイル コンサート	小ﾎｰﾙ	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝのﾌﾟﾛ奏者外による乳幼児向け（０歳から入場可）のｺﾝｻｰﾄ
パイプオルガンわくわく ワークショップ	ﾘﾊｰｻﾙ室	ﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝとﾋﾟｱﾉの演奏比較やｵﾙｶﾞﾝの仕組みを学ぶﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
倉吉未来中心イルミネーション点灯式＆ミニコンサート	ｱﾄﾘｳﾑ	ｸﾘｽﾏｽｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝの点灯式とﾊﾟｲﾌﾟｵﾙｶﾞﾝやﾊﾝﾄﾞﾍﾞﾙのﾐﾆｺﾝｻｰﾄ
ホールたんけんツアー2012	大ﾎｰﾙ	普段見ることのできない舞台の裏側を見学
みらい音楽堂vol.8	ｱﾄﾘｳﾑ	七夕ｺﾝｻｰﾄ「ｻｷｿﾌｫﾝ合奏のｺﾝｻｰﾄ」
みらい音楽堂vol.9	なしっこ館	館外ｺﾝｻｰﾄ「弦楽合奏のｺﾝｻｰﾄ」
みらい音楽堂vol.10	ｱﾄﾘｳﾑ	ｸﾘｽﾏｽｺﾝｻｰﾄ「ﾋﾟｱﾉ･ﾏﾘﾝﾊﾞ･ｳﾞｧｲｵﾘﾝ・ｿﾌﾟﾗﾉのｺﾝｻｰﾄ」
みらい音楽堂vol.11	ｱﾄﾘｳﾑ	ﾊﾞﾚﾝﾀｲﾝｺﾝｻｰﾄ「合唱のｺﾝｻｰﾄ」
みらい音楽堂ｽﾍﾟｼｬﾙvol.1	ｱﾄﾘｳﾑ	地元ｱｰﾃｨｽﾄによるﾗｲﾌﾞ
みらい音楽堂ｽﾍﾟｼｬﾙvol.2	ｱﾄﾘｳﾑ	地元劇団による演劇
Mechaしぶナイト倶楽部2013	小ﾎｰﾙ	ﾗｲﾌﾞｽﾀｲﾙでの県内ｱﾏﾁｭｱﾊﾞﾝﾄﾞによるﾗｲﾌﾞ

【平成25年度の事業実施計画】

ARTS FOR EVERYONE 楽演祭「みらいアートりうむ劇場」は、鑑賞公演と連動したプレ事業に特化し、「ARTS FOR EVERYONE」の事業ミッションを象徴するような事業として、リピーターの育成、新しい鑑賞者開発を行います。また、倉吉未来中心地域活性化事業は、地域の文化活動者や施設利用者の積極的な参画と協働による運営事業とし、文化を通して地域の活性化と支援者の拡大を図ります。

⇩

平成 25 年度の取組方針　ポイント

- **協働推進者の拡大**・・・Mecha しぶナイト倶楽部では、実行委員会やボランティアスタッフなどに若い世代を取り込む。パイプオルガン事業はワークショップを充実させ、幅広い愛好者の拡大を狙う。
- **多彩なジャンルの融合**・・・フォーク、バンド関係に偏りがちであるが、古典芸能やクラシック、ダンスなどを巻き込み、異ジャンルの交流を図る。
- **若者と熟練者の連携**・・・経験豊富な演奏者や企画者とこれからの文化振興を支える若者の連携を図る。
- **ボランティアにも活躍の場を**・・・技術を身につけた舞台ボランティアなどが実践する場とする。
- **施設利用文化活動者とのコラボレーション企画**・・・倉吉未来中心の練習室等を練習場として利用する文化活動者や文化団体と倉吉未来中心の共同企画によるアウトリーチ（オープンスペースによるライブ）企画の実施の検討。支援者及び協働推進者としての連携を狙う。
- **施設の利用促進にも繋がる事業展開**・・・施設の魅力的で新しい利用方法の提言も引き続き行い、利用者の拡大に繋がる文化事業の展開を実施します。

平成25年度の「倉吉未来中心地域活性化事業」の企画のポイント

①人や文化の**交流**促進
②地元文化活動者・団体の**支援**（出演・発表の場の提供）
③ホールボランティアの活動の**充実**
④倉吉未来中心の特性の**活用**（パイプオルガン、平土間の活用）
⑤アマチュアや若きアーティストの美術作品の発表の場の**提供**
⑥文化芸術と**ふれあう**機会の提供
⑦新しい利用スタイルの**提案**（ライブスタイル等）

○　ARTS FOR EVERYONE 楽演祭［実施内容］

ARTS FOR EVERYONE 楽演祭　みらいアートりうむ劇場（継続）

【概要】
プロ、またはそれに相当するアーティストによるミニコンサートなどを、アートマネジャーとの協働により実施する。

【内容】
倉吉未来中心で行う鑑賞型事業と連動させ、プレ又はアフター事業として実施し、参加者を継続的かつ横断的な鑑賞者へと導くとともに、利用促進とアートマネジャーの育成を図る。

○倉吉未来中心地域活性化事業［実施内容］

1　みらい音楽堂（年５回）

（１）みらい音楽堂（年４回）

【概要】季節毎の館内装飾（７月：七夕、１２月：クリスマス、２月：バレンタイン）と連動し、季節にちなんだ内容等によるコンサートを開催します。また、地域の交流を促進するため館外（なしっこ館など）での実施も行います。
出演は中部地区のアマチュアアーティストを中心に選考します。

【会場】装飾前特設ステージ、館外

（２）みらい音楽堂スペシャル　（年１回）

【概要】「みらい音楽堂」をよりレベルアップした県内アーティストによるステージとし、音楽に限らず、演劇やダンスなどの幅広いジャンルからの実施を検討します。また、「みらい音楽堂」の出演者が次の出演を目指す場所とします。

【会場】アトリウム

2　Mecha しぶ ナイト倶楽部 2014（年１回）

【概要】県内アマチュアバンドによるライブコンサート。世代を問わず音楽を楽しむ機会を提供するとともに、新しい小ホール利用スタイル（ライブハウススタイル）を提案します。

【会場】小ホール（平土間）

3　カフェ・クラシック（仮称、年１回）

【概要】県内アーティストによるクラシックコンサート。誰もがクラシック音楽に親しむ機会を提供するとともに、小ホール平土間利用のスタイルを提案します。

【会場】小ホール（平土間）

4　パイプオルガンわくわくランド（パイプオルガン活用事業）

（１）親子で楽しむ　ハッピー♪スマイル☺コンサート（年１回）

【概要】パイプオルガンのプロ奏者外による乳幼児向け（０歳から入場可）のコンサートを開催します。

【会場】小ホール（半平土間）

（２）みらいオルガンプロムナード（愛好者によるミニ演奏会）

【概要】「パイプオルガンの会」などの愛好者によるミニ演奏会を通年で開催し、発表の場を提供するとともに、オルガンの利用促進を図ります。

【会場】アトリウム自販機前等

5　ベーゼンドルファーピアノ演奏体験＆ワークショップ・ミニコンサート

【概要】世界３大ピアノのひとつであるベーゼンドルファーピアノの演奏体験（年２回）と調律師による構造の解説や地元ピアニストのミニコンサートなど（年１回）を通じ、ベーゼンドルファーの魅力の周知を図ります。

【会場】大ホール